

豊前海におけるナルトビエイの防除等に関する研究

豊前海研究所

背景、目的

豊前海区においてアサリ資源が減少した原因のひとつに、ナルトビエイによる食害の影響が挙げられています。しかし、その生態は不明な部分が多く、効果的な駆除方法も確立されていないのが現状です。

そのため、本研究では、ナルトビエイの回遊など生態の一端を解明するとともに、駆除のための有効利用方法を検討しました。

成果の概要

(1) ナルトビエイの移動生態

ナルトビエイに水深、水温を記録できる装置を付けて放流し、一年後に回収された個体のデータを解析したところ、ナルトビエイは9月中旬まで周防灘海域に、9月中旬から12月中旬まで別府湾海域に、12月中旬から5月上旬まで豊後水道東部海域に留まった後、再び周防灘海域に來遊していることが推定されました。



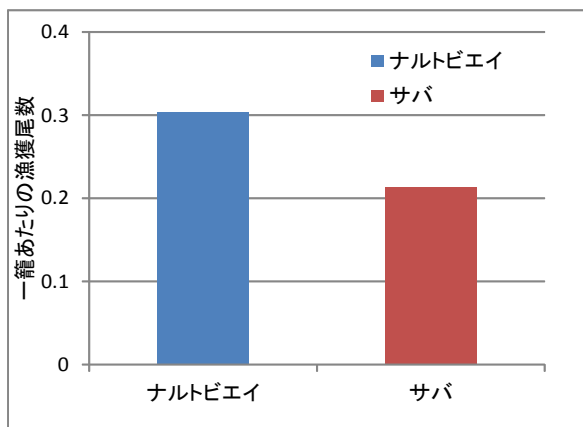
推定されたナルトビエイの移動

(2) 有効利用に関する検討

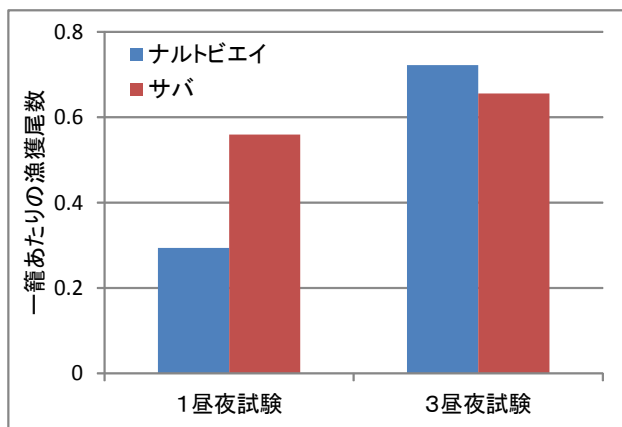
通常、サバを餌としているタコカゴ漁とカニカゴ漁で、ナルトビエイの代替餌としての可能性を評価しました。

タコカゴ漁では、全調査においてナルトビエイ餌の方が多く漁獲され、代替餌として利用可能との結果が得られました。

カニカゴ漁では、1昼夜投入の場合はサバ餌の方が多く漁獲されたものの、ナルトビエイの餌持ちの良さに着目し3昼夜投入した場合では同等の漁獲がありました。漁獲が少なくなる時期での長期間投入は、餌代、燃料費などの削減を目的とした代替餌として有効であると考えられました。



タコカゴ試験での餌の違いによる一カゴあたりの漁獲尾数



カニカゴ試験での餌および投入方法別一カゴあたりの漁獲尾数